

「家庭基礎」学習指導案

広島県立府中高等学校
教諭 長谷 綾 乃

本学習指導案のポイント（高校教育指導課 指導主事 中村 誉子）

- 住宅情報の収集や選択について、立場を明確にしてそれぞれの視点で考えさせ、相互評価することで、論理的に表現すること、自分とは違う見方や価値観があることに気付くことができる学習となっていた。
- 単元を通して共通する住宅情報誌を用いて学習が進められており、個人の思考、グループ協議、発表が繰り返される過程で学んだ知識を用いて思考が深まる仕掛けが有効に働いていた。

1 実施日：令和5年11月10日（金）2限：9時55分～10時45分（50分）

2 学年・学級：第1学年1組（40名）

3 単元名：住生活をつくる

4 単元（題材）について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領「家庭基礎」の「B 衣食住の生活の自立と設計」の（3）「住生活と住環境」を踏まえて設定したものである。本単元では、ライフステージに応じた住生活の特徴や防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けることをねらいとしている。特に、一人暮らしや家族と住む住宅の間取り図等を理解させ、よりよい住生活の創造について考え、工夫できるようにする。

(2) 生徒観

事前に行ったアンケートでは、「あなたにとって住まいは大切か」という問いに対し「とても大切だと思う」と94.3%の生徒が答えており、「今後、一人暮らしをする時に住宅にこだわりたいことがあるか」という問いにも80%の生徒が「ある」と答え、多くの生徒が住宅に対して興味・関心を持っていることがわかる。しかし、自分の住まいについて家賃や間取りなど具体的に考えている生徒は少なく、住まいに対してこだわりたいと思っているものの、どうしたらよいか分からないと答えた生徒も数名見られた。「実際に内見に行ったり、住宅情報誌に載っている間取りを見に行ったりしたことはあるか」という問いに対し、「内見をしたことも間取りも見ただこともない」と答えた生徒が40%、「そもそも間取りとはなにかわからない」と答えた生徒が10.3%であった。

また、1学期期末考査の活用問題やこれまで実施したパフォーマンス課題において、思考・判断・表現に関わるルーブリック評価（S、A、B、Cの4段階）において、B、C評価の生徒が約40%であった。このことから、問いに対する自分の考えを根拠とともに説明することに課題があることが分かる。本単元においても、よりよい住生活の創造について考える際に、自分の考えを他者に伝える活動を取り入れ、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する力を身に付けさせたい。さらに、実際に一人暮らしをするということを仮定して課題に取り組ませることにより、住生活を主体的に営む力の向上を目指したい。

(3) 指導観

本時は、住生活のまとめとし、「条件に合った住選択」の疑似体験を行う。こちらが設定した条件を踏まえて、住宅を選ぶ人と、その人に住宅をプレゼンする人を決めて住宅情報誌の中から選択させる。選択した理由を含めて発表させ、相互評価することで論理的に表現することに加え、自分とは違う観点や価値観があることにも気付かせたい。疑似体験をする中で様々な住宅情報を比較したり、他者の意見に触れたりすることで思考を深め、実生活に生かせる知識と技能を養いたい。

5 単元の目標

- (1) ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。[知識及び技能]
- (2) 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想することで、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。[思考力、判断力、表現力等]
- (3) 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。[学びに向かう力、人間性等]

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想することで、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

7 指導と評価の計画（全 6 時間）

次	学習内容（時数）	評価				
		知	思	主	評価規準	評価方法
1	住生活の変遷と住居の機能（1時間）	○	○		・生活行為と住居の関係を理解している。（知） ・間取り図から生活上の課題を見いだしている。（思）	ワークシート 観察
2	安全で快適な住生活の計画（2時間）	○	○		・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解している。（知） ・住生活の中で課題を見つけ、解決策を構想している。（思）	ワークシート 観察 発表
3	住生活の文化と知恵（1時間）	○			・気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本の住文化について理解している。	ワークシート 観察

4	これからの住生活 (1時間)		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な住居や、地域やまちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について考察し、表現している。(思) 安全や環境に配慮した住生活や住環境について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(主) 	ワークシート 観察
5	単元のまとめ (1時間) 本時		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 住む人の条件に合った住宅を選択し、理由を含めて発表している。(思) 住宅情報の収集や選択に関心を持ち、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。(主) 	ワークシート 観察

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・住む人の条件に合った住宅を選択し、その理由を含めて発表することができる。
- ・住宅情報の収集や選択に関心を持ち、意欲的に活動に取り組むことができる。

(2) 観点別評価規準

- ・住む人の条件に合った住宅を選択し、その理由を含めて発表している。[思考・判断・表現]
- ・住宅情報の収集や選択に関心を持ち、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

(3) 準備物

教科書「家庭基礎（東京書籍）」、ファイル、資料集、住宅情報誌、iPad、プロジェクター

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 これまでの内容を振り返る。	○これまでの内容を振り返らせ、本時の内容を理解させる。	
	2 本時の目標と学習内容を確認する。 本時の目標：条件に合った住宅を選択し、その理由を含めて発表することができる。		
展開 35分	3 住選択者と、その人に住宅をプレゼンする人を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○4～5人グループを作り、じゃんけんで住選択者を設定させる。(1人住選択者、その他は全員プレゼン者) ○住宅の希望条件を提示し、ワークシートに記入させる。 ○住選択者が条件を増やしても良いことを伝え、どのような過ごし方をしたいか考えさせる。 ○住選択者に希望条件で提示した中で、一人暮らしの住居を仮定して優先順位をつけさせ、条件をより明確にさせる。 ○初回授業から使っている住宅情報誌の中から、住選択者の希望条件にあった住宅を選択させる。(住選択者も選ぶ。) ○ワークシートに選んだ住宅情報を記入させ、希望条件に当てはまることや住選択者に勧めたい理由などをまとめさせる。 ○発表が終わるごとにルーブリック評価を用いて、選択理由を含んだ発表内容が住選択者の希望に合っているか評価させる。 ○住選択者が選んでいた住宅を、理由を含めて発表させる。 ○プレゼン者の発表を聞いた後、最終的に選んだ住宅について説明させる。 ○住宅を選んだ人にどんな理由で何を選択したのか発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住む人の条件に合った住宅を選択し、理由を含めて発表している。[思考・判断・表現] (ワークシート) ○住宅情報の収集や選択に関心を持ち、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度] (観察)
	4 希望条件を整理する。(グループ活動) ・社会人1年目 ・築年数20年以内 ・ユニットバスではないもの ・最寄り駅やバス停まで徒歩15分以内		
	5 住選択者が希望条件に優先順位をつける。		
	6 住宅情報誌を使って住宅を選ぶ。(個人活動)		
	7 選択した住宅情報について、発表の要点をまとめる。(個人活動)		
	8 プレゼン者が発表し、評価する。(グループ発表)		
9 住選択者が発表をする。(グループ発表)			
10 いくつかのグループの発表をする。(全体発表)			
まとめ 10分	11 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○将来、今回の授業内容だけでなく防災や安全面など学習したことを生かして住選択ができるよう再確認させる。 ○本時の内容を振り返らせる。 	
	12 まとめシートに記入する。		

(5) 本時の評価ルーブリック

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足)	住宅を選択する人の希望条件に合った住宅を、根拠として複数の視点から選択し分かりやすく発表している。	住宅情報の収集や選択に関心を持ち、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
B (おおむね満足)	住宅を選択する人の希望条件に合った住宅を選択し、発表している。	住宅情報の収集や選択に関心を持ち、活動に取り組んでいる。
C (努力を要する)	住宅の選択はしているが、希望条件に合っておらず、選択理由が不明瞭で分かりやすい発表になっていない。	住宅情報の収集や選択に取り組んでいない。